

オアシス #4

2020. 4. 24

将来のお話

第4号では、文理選択についてのお話をします。授業すらまともに受けていないのに、文系か理系かなんて決められないでしょうし、そもそも文系と理系の差もわからない人も多いでしょう。この状況下でどれだけのイメージと自分自身の展望を抱いてもらえるかわかりませんが、第4号を読んで、できるだけ多くのことを考えてほしいと思います。

今年については未定ですが、例年では1学期中に文理を決定し、10月に本登録（これ以降はどのような事情があっても変更できない）を行います。それまでに、自分はどんな分野に興味があるのか、どんな人になりたいのか、どんな仕事に就きたいのか、などを考えてもらわなければなりません。2年生の途中で文系から理系に変更するということはできませんので、非常に大きな決断を短い時間で迫られるというわけです。もちろん、学校からもたくさんの情報を提供し、後悔のない選択ができるように支援しますので、安心してください。ただ、

最終的に決めるのは自分

ということを自覚し、文理選択への準備を進めてください。



まずは、自分の興味のある分野から考え始めるとよいでしょう。科目の興味でもいいですし、もっと大きなくりの興味でもいいです。ざっくりと言うと、機械やAI、医療に関心がある人は理系を、言語や文化、経済に関心がある人は文系を選択するといった具合です。ここで注意すべきは、

消去法で選択すると後悔しやすい

ということです。例えば、「英語が嫌いだから文系は難しいだろうし、理系にしよう」という決め方はすべきでないということです。卒業生に文理選択について振り返ってもらったところ、この声が一番多かったです。後ろ向きな理由ではなく、前向きな理由で文理選択をしてください。



ただ、正直なところ、多くの人が前向きな理由を持っていないのではないのでしょうか？好きな科目も特になく、興味のある分野も見つからない人の方が圧倒的に多いように思います（むしろ約15年の人生の中で、自分の興味のあることを確立している方が偉いなあとと思います）。

では、紙と鉛筆を用意してください。今から3分間で知っている職業を書けるだけ書いてください。START！

どのくらい書けましたか？30個書けたら素晴らしいと思います！

さて、もう一度その書いた職業を見てみてください。何か共通点はありませんか？その多くが実際に目にしたことのある職業か、人と直接的にかかわる職業ではないでしょうか？



それが先に挙がるのは当然のことですが、それ以外の仕事もたくさんあるということです。少し古いデータですが、2012年の「労働省編職業分類」には28275種の職業名が採録されているとのレポートがあります。つまり、公的に把握されている仕事だけでも30000近くの職業があるということです。このすべてを把握するのは不可能ですが、できるだけ多くの職業を知ったうえで選択することが後悔のない選択への最善の方法なのです。

例えば、弁理士、証券アナリスト、通関士、社会福祉士について、簡単に説明できますか？こういったことから進路選択は始まります。



メールなどで授業のことだけではなく、進路に関わる情報も随時発信していきたいと思います。これらの情報をきっかけとして、自分で色々と探してみてください。もう一度言いますが、文理選択は自分で決めなければいけないことです。友達と一緒にするとか、苦手科目の少ない方にとか、なんとなくのイメージとか、そういったもので決めないように！

郵送した大学について調べるシートも活用してみてください。例えば、大学についても職業と同じで、たくさん知ったうえで自分に合ったところを探していくことが大切です。自分なりにシートを埋めてみて、そこから気になったことを調べていきましょう！

例年であれば、勉強や部活に忙しい中、文理選択を決定していくので、結構大変です。この休校期間を逆手にとって、じっくりと進路を考える期間にしてください。分からないことについては、担任の先生と相談して決めていくので、しっかりと決まらなくても大丈夫です。カリキュラムについても丁寧に相談に乗りますので安心してください。